

本校前に広がる蓮池では、例年より少し遅れて蓮の花が満開となっています。暑さをものともせず泥の中から蕾を伸ばし大きな花を開いている様子を見ると、元気をもらえる気がします。

さて本校では1学期、児童生徒の引き渡しや学校留置きについて訓練や研修に取り組んできました。7月には地震発生を想定した予告なしのミニ訓練を行い、安全確保行動や安否確認について確認することを行いました。

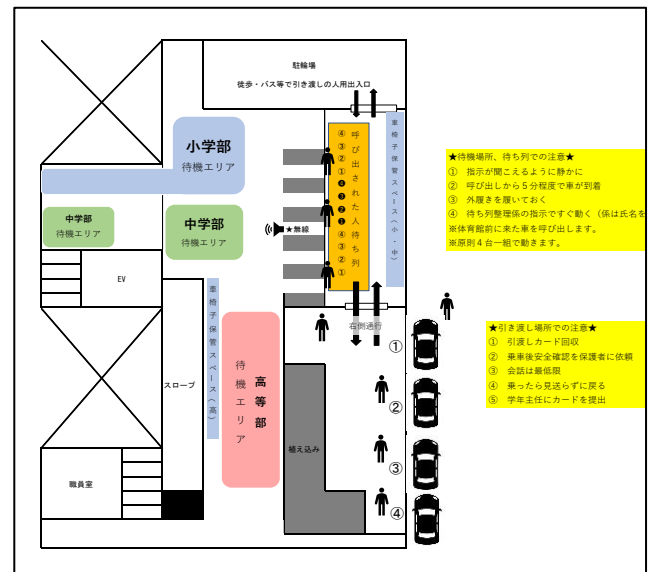
6月は大雨のため急遽下校時間を早める対応をしたり雨漏りで給食調理室が被害を受け給食提供が困難になったりする等、非常時対応を行う機会があり多くの教訓が得られましたのでご報告します。

引き渡し訓練

今年度は引き渡し訓練を行う前、6月2日に大雨のため急遽引き渡しの形で下校対応を取ることとなり、いくつかの課題が明らかになりました。多くの教員が訓練を訓練で終わらせない大切さを痛感しました。事後、職員アンケートで課題を集約し、優先順位の高い課題から迅速に改善を図り、引き渡し訓練では円滑な引き渡しが行えました。防災マニュアルの改訂もを行い、職員間で共有しました。



・引き渡し経路上の車両待機可能台数を試算



・引き渡し待機中の昇降口周辺の配置計画を作成

ミニ訓練

今年度も予告なしで行うミニ訓練を年6回実施する予定です。1学期は児童生徒が学校生活に慣れてきた7月に地震発生を想定したミニ訓練を行いました。児童生徒も教員も、発災時の身の安全を確保する行動について考えることができました。実践を繰り返すことで、とっさのときも安全な行動がとれるよう、2学期以降も取り組む予定です。2学期は地震だけでなく、不審者や火災を想定した内容での訓練も予定しています。

夏季防災研修（職員研修）

8月24日に職員研修として、静岡県中部地域局より講師を招き、巨大地震発生による児童生徒の学校留置き対応をテーマに図上訓練を行いました。

本校周辺地域のハザードマップを見ると、津波こそ到達の予想はありませんが、最大震度の予想は震度6強～7（立ってられない、物が飛ぶ程度）となっています。また揺れだけでなく周辺の道路には液状化や土砂災害、浸水などが想定されます。このような災害予想がある地域であるため、児童生徒を保護者の方に引き渡すことができず学校で避難生活（学校留置き対応）することも大いに予想されます。

講師による講演では、阪神淡路大震災や東日本大震災の映像や画像を参考にしながら、巨大地震発生時の屋内外の様子を具体的に知り、日頃の地震対策（家具の固定や物の収納等）の重要性を再確認するとともに避難生活を送るときの屋内のイメージを持つことができました。

図上訓練では、普段授業を行う場所と集団で避難生活を送ることを想定し、児童生徒の安全管理を行いながら全体に関わる役割分担をこなしたり突如発生するトラブルに対処したりすることができるか、イメージトレーニングを行いました。また、必要用物品についても考え意見を出し合いました。図上訓練を通して、情報共有手段や学部内や学部間での協力体制、電源確保などが課題であると確認できました。

今後も専門家の助言を得ながら、児童生徒学校留置き計画の充実を図りたいと思います。



本校では自力で避難することが難しい児童生徒が大勢います。今回の訓練により教員一人ひとりの防災意識がさらに高まりました。今後も児童生徒の命を守ることができる学校を目指して取り組んでいきます。

今後の訓練、研修の予定

8、9月	(保護者、職員) 災害用伝言ダイヤル訓練
9月	(児童生徒、職員) 防犯研修・防犯ミニ訓練
10月	(児童生徒、職員) 防災訓練
11月	(児童生徒、職員) 火災避難訓練

予告なしのミニ訓練も随時行います。

